年頭のあいさつ

雲南広域連合長
速水雄一

新年あけましておめでとうございます。皆様には希望に満ちた新年をお迎えとお慶び申し上げます。

雲南広域連合は、一市二町（雲南市・奥出雲町・飯南町）にまたがる、地域振興、介護保険、消防、し尿処理業務を取り扱っております。住民サービスの向上に向けて引き続き努力して参りますので、よろしくお願いします。

まず、雲南広域連合における広域的な地域振興事業でございます。

昨年、平成24年は古事記が編さんされてから1300年目の節目にあたりました。島根県では「神話博しまね」を開催し、たいへんな盛り上がりを見せました。最終的な入場者数は70万人を突破し、大成功であったと聞いております。

雲南地域におきましても「出雲神楽と食のフェスタ」や「うんなんオロチ街道フェア」、「オロチ探しの達人」など様々なイベントを開催し、観光客の誘致を図ってきました。これらイベントを通じて、県内外の方に雲南地域の魅力を十分にＰＲできたと感じています。

今年、平成25年は出雲大社の大遷宮が行われる年です。約60年ぶりに大社の御殿が新装されるため、多数の参拝者がいらっしゃると思います。また、今年の3月には、尾道松江線が吉田・掛合ＩＣから広島の三次まで開通する予定です。これにより、松江市から三次市まで高速道路でつながることになります。利便性が向上し、車の往来が増加することで、ますます両県の交流が活性化することと思います。

雲南地域におきましてもこの機会を好機ととらえ、積極的に広島へＰＲしていきたいと考えています。雲南地域には、古事記や出雲国風土記に記載される伝承地、豊かな自然に彩られた景観地、安心安全でおいしい食など、魅力的で貴重な資源が多数存在します。高速道路ができ、交通の利便性が増したことで、これらを積極的にアピールし、県外の皆様にどしどしと雲南地域へ来ていただくような仕掛けづくりをする考えであります。

次に介護保険事業でございます。

第1号被保険者数は、ここ近年減少傾向にありましたが、団塊の世代が65歳に到達しはじめた影響で平成24年度は増加に転じています。

また、要介護（要支援）認定者数も後期高齢者（75歳以上）の増加と相まって年々増加しています。

平成24年4月から始まった第5期介護保険事業計画（平成24年度～平成26年度）につきましては、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、①介護、②予防、③医療、④生活支援、⑤住まいの5つのサービスを一体的に提供していく「地域包括ケア」の実現に向けて取り組むこととなっており、雲南地域においては、独居高齢者や高齢者夫婦世帯の増加に加え、認知症高齢者も増加しており、生活支援サービス、認知症支援策の充実を優先的に取り組むこととしています。

サービス基盤整備は、施設待機者や認知症高齢者の増加、短期入所のニーズに対応して「特別養護老人ホーム」や「短期入所生活介護」、「認知症対応型共同生活介護」や「小規模多機能型居宅介護」を重点的に整備することとしています。

引き続き介護予防の充実を図るとともに、要介護（要支援）状態になっても高齢者が安心して暮らし続けることができる地域を目指してまいります。

次に消防業務でございます。

雲南消防本部管内の災害発生につきましては、九州地方を中心に豪雨災害が発生した昨年、当管内におきましても7月6日の午後9時頃から豪雨となり、時間雨量70ミリを超える地区もあるなど、災害発生に対して大きな不安を抱いたところであります。

幸いにも管内では人的被害は発生しておりませんが、住家、道路、農地、農業用施設等で大きな被害が発生しました。

今後も、こうした豪雨や地震等がいつ発生してもおかしくない状況でありますので、住民の皆様の一人ひとりが災害に対する関心を一層深めていただきたいと思います。

消防本部といたしましても、消防団をはじめ関係機関との連携を密にして、地域の安心安全の確保を目指し、さらなる防災体制の強化を図って参ります。

昨年の出動状況につきましては、火災は、昨年と比べ8件減少し24件発生しました。この要因は、建物火災が減少したことによるものであります。

また、救急は2119人を医療機関に搬送し、この内約7割が高齢者の占める状況でした。また、ドクターヘリへの搬送は165人で、これは搬送の約8％を占めており、こうした取り組みにより重篤患者の搬送時間が短縮し、速やかに医師の管理下に置くことが可能となりました。

尾道松江線開通による交通量増加に対する災害対策については、関係機関との連携を密接にするとともに、一層の救急救助活動の強化を図っていく所存であります。

消防救急無線のデジタル化につきましては、消防広域応援に係る円滑な通信体制の確保等を目的とし、島根県と共同で昨年から本格的に整備を進めており、平成26年度の整備完了にむけて鋭意取り組んで参ります。

次に、環境衛生業務でございます。

現在のし尿処理施設は供用開始以来22年が経過し、施設の老朽化が著しくなっています。一方、水洗化率の向上により雲南地域下水道7処理場においては下水汚泥の増加に伴う維持管理費、処分費の増大が課題になってきています。こうした課題に、集約化を進め効率的な運営を図るべく島根県・国土交通省と施設整備協議を進めてきました。木次三刀屋浄化センターで水処理、雲南クリーンセンターで汚泥処理、2つの施設がそれぞれ機能分担による一体での下水道施設として計画の認証をいただいたところであります。この認証により雲南地域全体のし尿・浄化槽汚泥・農業集落排水汚泥、下水道7処理施設の汚泥を集約処理・処分が出来、効率的な運営が出来ると考えます。都市計画業務、下水道事業計画業務の目途がつきましたので、平成25年度より雲南クリーンセンターを汚泥共同処理施設として整備を計画的に進めていく考えであります。

今後とも、雲南地域の広域行政を担う雲南広域連合に対して、いっそうのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、年頭のあいさつとします。

新春のあいさつ

雲南広域連合議会
議長
深田徳夫

新年あけましておめでとうございます。

皆様には新春をお健やかにお迎えのことと雲南広域連合議会を代表してお慶び申し上げます。

昨年はわが国を取り巻く諸課題が、これまでにも増して顕著になった年でした。一昨年の東日本大震災に起因する原発事故に端を発したエネルギー政策のあり方、遅々として進まないがれき処理問題などを含む震災復興、さらには原発30キロ圏内からの広域避難計画策定など、新たな課題への対応に迫られています。また、竹島や尖閣諸島をめぐって近隣諸国との間に発生した軋轢は、領土保全という国家の基幹問題であるとともに国内経済にも大きな影響を及ぼしています。

こうした中で行われた衆議院議員総選挙は、まさにこれからの日本の進む方向を決める重要なものであり一刻も早い政治の安定が望まれるところです。

さて、雲南広域連合は、平成11年8月の設立以来、本年で15年目を迎えようとしていますが、一昨年からは、消防業務、し尿処理業務も加わり、圏域の住民の皆さんの日々の安心安全を支える重要な役割を担っています。

特に本年は、介護保険事業の安定的な事業展開、観光を中心とする地域連携強化、消防救急無線デジタル化事業の本格実施、汚泥共同処理施設整備事業に着手するなど大きなプロジェクトも動き出そうとしています。

雲南広域連合議会におきましても、皆様のご期待に応えられるよう圏域の課題をしっかり執行部に届け、圏域住民の皆様に安心して住んで頂ける環境整備が図られることや更なる住民サービスの向上につながる施策が展開されるよう、審議を通して提言や監視などしっかりと役割を果たして参りたいと思います。

本年も、皆様一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに雲南圏域の発展と皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

平成24年12月25日、雲南市議会議員の改選に伴う雲南広域連合議会の構成替えがありました。
新たな構成については、次のとおりです。

雲南広域連合議会構成表

役職名		氏名	市町名
議長		深田徳夫	雲南市
副議長		那須穂士輝	飯南町
総務常任委員会（7名）	委員長	小野　覚	飯南町
	副委員長	若月康男	奥出雲町
	委員	周藤正志	雲南市
	委員	堀江　眞	雲南市
	委員	土江良治	雲南市
	委員	塔村俊介	奥出雲町
	委員	那須穂士輝	飯南町
厚生常任委員会（7名）	委員長	周藤　強	雲南市
	副委員長	長島正一	飯南町
	委員	山﨑正幸	雲南市

役職名		氏名	市町名
厚生常任委員会	委員	堀江治之	雲南市
	委員	深田徳夫	雲南市
	委員	景山孝志	奥出雲町
	委員	福本　修	奥出雲町
議会運営委員会（6名）	委員長	景山孝志	奥出雲町
	副委員長	周藤　強	雲南市
	委員	堀江　眞	雲南市
	委員	福本　修	奥出雲町
	委員	小野　覚	飯南町
	委員	那須穂士輝	飯南町
監査委員（議会選出）		福本　修	奥出雲町